



学校だより

2月号

横浜市立六つ川台小学校
令和5年1月31日

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>
E-mail: ky-e-mutudai@city.yokohama.jp

自立のための基礎力

副校長 小山 雅史

六つ川中学校ブロックでは、「自立のための基礎力」の育成を共通目標として掲げています。「自立のための基礎力」にある「自立」とは、言葉の意味としては、自分の力で物事を進めていくこととあります。そうした「自立」を見据え、「自立のための基礎力」を身に付けていく子どもの姿を願い、中学校ブロックでの共通目標としているのです。つまり、子どもたちが将来自立するために、小学校・中学校の期間にその基礎力を身に付けていくことを目指しているのです。

そうした「自立のための基礎力」の姿を想定し、中学校ブロックでは挨拶、清掃、感謝、けじめの最初の文字をとった「あせかけ運動」にも取り組んでいます。1月の全校朝会で、挨拶について話をしました。挨拶をどのようにしているかということです。「挨拶は当たり前」とよく言われますが、その当たり前は、どのようなことが当たり前なのでしょう。自分から挨拶をするのが当たり前でしょうか。相手から挨拶をされてからするのが当たり前でしょうか。考えるきっかけになればと思い、全校に向けテレビ放送の画面越しに問いかけました。

また、先日、ネットのブログ記事で、子どもの起床について、子どもが朝自分で起きるようにするにはどうするか、という内容のものがありませんでした。どうすればよいでしょうか。記事には、自分で起きてくるまで「待つ」ということとありました。起きるのが遅くなり、ぎりぎりになってしまうといったことも心配されます。しかし遅くなるからと言っていつも声を掛けて起こしては、声を掛けないと起きないという習慣が付いてしまうのです。当然、いきなり何も声を掛けないとするのは無理ですね。なので、時期を見計らって保護者が子どもから離れていくことがポイントもありました。

「自立のための基礎力」という視点から見ると、挨拶や朝の起床など、日常のいろいろな場面が「自立のための基礎力」につながると感じます。子どもを取り巻く環境から「自立のための基礎力」を身に付ける機会をいかに見だし、それを子どもにいかに投げかけ、そして本人に任せていくのが、私たちには問われていると考えます。本人に任せるのは何か、どこまで任せるのか、そのきっかけはどうか、考えどころはいろいろあります。

さて、朝会の話以降、朝、昇降口で挨拶をしていると、たくさんの子どもの自分から挨拶をするようになってきました。少しのきっかけでも、自分から動き出すことができるということを改めて感じました。できることから少しずつでも進めていきたいと思えます。引き続き、保護者の皆様のご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。